

瀬戸市連区別・年齢別・男女別人口 《概要》

平成30年10月1日現在

『瀬戸市連区別・年齢別・男女別人口』は、住民基本台帳をもとに集計したもので、毎年4月1日、10月1日を基準日とし集計公表しています。

総人口 129,656人 前年に比べ0.4%減

平成30年10月1日現在の総人口は129,656人で前年を555人(0.4%)下回りました。

自然増減・社会増減 自然増減598人減 社会増減43人増

この1年間の出生者数は791人で前年から40人減少し、死亡者数は1,389人で前年から87人増加しました。出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は598人の減になりました。

この1年間の転入者数と転出者数の差にその他の増減を加減した社会増減は43人の増となりました。

連区別人口増減

連区別にみると、自然増減、社会増減および市内転居の全てにおいて増加した連区は菱野連区のみで、反対に全てにおいて減少した連区は、古瀬戸・水南・原山台・萩山台・品野の5連区となりました。

平均年齢 47.0歳 男45.5歳 女48.4歳

平均年齢は47.0歳となり、前年と比べ0.4歳上昇しました。

連区別にみると、深川連区で54.4歳、品野連区で53.8歳となり、平均を大きく上回りました。

一方、平均年齢が最も低い連区は菱野連区で43.1歳、次いで山口連区で43.5歳となりました。

年齢3区分別人口 年少人口 226人減 老年人口割合 29.3%

年齢別人口は、年少人口(0～14歳)が16,332人で前年を226人下回りました。年少人口の総人口に占める割合は12.6%で前年を0.1ポイント下回りました。生産年齢人口(15～64歳)は58.1%で前年を0.4ポイント下回ったのに対し、老年人口(65歳以上)は29.3%となり、前年を0.5ポイント上回りました。

連区別にみると、老年人口の割合が最も高い連区は萩山台連区(43.2%)で、深川連区(42.9%)、八幡台連区(41.3%)、品野連区(41.0%)と続いています。

一方、年少人口の割合が最も高い連区は水野連区(16.9%)で、山口連区(14.4%)、効範連区(14.3%)、長根連区(14.0%)と続いています。全ての連区で年少人口が老年人口を下回りました。

また、生産年齢人口の割合が最も高い連区は菱野連区(64.9%)で、次いで山口連区(62.2%)、長根連区(62.0%)、効範・水南連区(61.1%)となりました。

※結果表等における構成比は、四捨五入した関係で一致しない場合があります。

※この冊子及び「連区別・年齢(各歳)別・男女別人口」は、瀬戸市ホームページに掲載されています。

平成30年10月 瀬戸市 経営戦略部 政策推進課